

NEWS

東北復興を応援「再生」のオブジェが会津大学へ コーチ・ジャパン社から「トールスノット」が寄贈



▲テープカットを行う関係者

12月4日、コーチ・ジャパン合同会社から会津大学へ、オブジェ「トールスノット」が寄贈されました。

当日は、午後1時から管理棟ラウンジでオープニングセレモニーが開催され、同社長のダニエル・ディチーコ氏、作品を共働で企画制作した(株)リバースプロジェクト副代表の龜石太夏^{たかまさ}匡氏、会津大学の角山茂章学長ら関係者によるテープカットが行われました。

東日本大震災で被災した地域の復興を願い、東北地方へのオブジェ寄贈を考えていたコーチ・ジャパン社が、福島県復興の支援活動のために設立される「会津大学復興支援センター」の趣旨に賛同したことから、今回の寄贈は実現したものです。

ディチーコ社長は「トールスノットが、会津大学への激励と希望のメッセージとなり、東日本大震災からの復興に向けたシンボルとなることを願う」と挨拶。制作を担当したリバースプロジェクト社の龜石副代表は「作品を常設する機会を与えてくれた会津大学に感謝する」と述べました。

◆ トールスノット

「トールスノット」は、「社会において責任ある行動をとる」を意味する“Sustainability”が企業精神のコーチ・ジャパン社と、俳優の伊勢谷友介氏が代表を務め、アート作品の制作を通して地球・社会環境を見つめなす活動を行うリバースプロジェクト社がコラボし、「リサイクルの象徴とはなにか」を考え続けることを形にしたものです。

材料には、米国 COACH 本社(NY)の工房に眠っていた廃材や未使用の素材が再利用されており、新しい目的を与えられた素材の“Rebirth(再生)”を表現しています。

「トールスノット」は、会津大学管理棟ラウンジで一般公開されておりますので、是非ご覧ください。

